

46. 神保町ブックフェスティバル

1 日程 2024年10月26日(土)、27日(日)
2 場所 神田神保町 すずらん通り 神保町三井ビルディング公開空地

3 概要

第32回「神保町ブックフェスティバル」が10月26日(土)27日(日)の2日間、開催されました。会場は東京・千代田区の神田神保町、すずらん通り、神保町三井ビルディング公開空地になります。本学からも2日間で26名のボランティアスタッフが参加しました。活動内容はごみエコ隊(ごみの分別指南役、ごみの減量化)、インフォメーション(来場者への会場案内)、交通案内(道路横断時の誘導、案内)ステージのサポート、子ども誘導などを各人グループに分かれ担当しました。全国でも最大級の規模を誇る、読書の秋にふさわしい本のお祭り「神保町ブックフェスティバル」。出版社をはじめとした多数のブースが並び、幅広いジャンルの書籍を販売されました。他大学の学生、社会人の方のボランティアスタッフの活躍もあり、本好きにだけでなく、老若男女、ご家族みんなで楽しめる2日間となりました。

4 学生参加者数 10月26日(土) 13人
10月27日(日) 13人

5 参加学生の感想

今回、初めてのボランティア参加でしたが、ろう者の方のご対応をしたことが1番記憶に残っています。私は手話サークルに所属しているのですが、今までサークル外で手話を使用した経験がほとんどなく、実際にご対応できろう者の方にも「手話上手だね」と言っていただけました。ボランティアに参加して良かったと心から思いました。

ずっと神保町のブックフェスティバルに訪れてみたいと思っていたため、ボランティアという形で今回参加することが出来てとてもよかったです。本当に様々な方々が足を運んできていて、目的も様々のようでとても面白かったです。一緒に動いたボランティアの学生さんも意欲的で親切だったので、すごく有難かったです。また、ぜひ来年も参加の機会がありましたら、うれしく思います。

生命科学部生命機能学科2年 木村 莉子



本の街
市ヶ谷ボランティアセンター地域貢献ボランティア

神保町ブックフェスティバル

10月26日(土)
27日(日)

運営ボランティア募集
神田神保町 すずらん通り・さくら通り

本の街として知られる東京・神田神保町で今年もブックフェスティバルが実施となりました。大手から中小のさまざまな出版社が對安で本を販売します。本好きが“掘り出し物”や“お宝”を求めて神保町に集まります。新刊本のお祭りにあなただもボランティアとして参加し、神田神保町を身近に感じてみませんか。

ボランティア概要
・見回り係・インフォメーション・交通案内

●10月26日(土)
①10:00~13:00 6名
②13:00~16:00 6名
③16:00~19:00 6名

●10月27日(日)
④10:00~13:00 6名
⑤13:00~16:00 6名
⑥16:00~19:00 6名

★開始30分前までに受付をすませてください。
イベント保険加入、食事(軽食)が付きです。

【申込】 Googleフォームまたはメールでお願いします。
【お問い合わせ】 市ヶ谷ボランティアセンター(外灘校舎学生センター内)
tel: 03-3264-9516 email: ichigayavo-apply@ml.hosei.ac.jp



第32回ブックフェスティバル会場

47. 災害救助犬を知ろう！～災害救助犬の役割とは？～

- 1 日程 2024年10月25日(金)
- 2 場所 市ヶ谷総合体育館1階 会議室
市ヶ谷総合体育館5階 アリーナ

3 概要

2024年10月25日、市ヶ谷体育館にて本企画が実施されました。当日は、NPO法人災害救助犬ネットワークから3名のハンドラーと3匹の災害救助犬を招き、講義とデモンストレーション及び災害救助犬との触れ合いを行いました。講義では、生い立ちや犬種、訓練方法など普段知ることのできない詳しいお話をしていただきました。その後、簡単なコマンドや、隠れた参加者を見つけるなどのデモンストレーションをしていただきました。災害救助犬との触れ合いでは、実際におもちゃで遊ぶなど近い距離でコミュニケーションをとることができ、貴重な体験となりました。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
経営学部経営学科1年 北原 花夏

4 学生参加者数 28名

5 参加学生の感想

災害救助犬と普段関わる機会がなく、今回初めて関わる事が出来、人間を救助するためにワンちゃんたちが頑張ってくれている姿に感動を覚え、とてもありがたい存在だと思いました。またトレーニングの延長線に現場での活躍があって、頭脳は違えどワンちゃんなんだと感じました。とてもありがたい存在だと思いました。また、スイスの例を見て、日本は行政とNPO災害救助犬とのつながりが課題であり、つながりを深めることでより早く災害救助犬の導入につなげられるのではないかと思います。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 阿部 礼佳

災害救助犬という存在について詳しく知らなかったので、講義でどのような活動をしているのかなどが学べてよかった。その後に災害救助犬と対面してみて、ハンドラーの言葉に従う様子はとても賢く、しかしおもちゃで遊ぶ様子は良い意味で普通の犬と変わらなかったのが印象に残っている。実際に会ってみて、どのような存在であるのかより詳しくなれたように感じる。

法学部国際政治学科1年 植木 佑奈

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催・チーム・オレンジ企画
(法政大学後援会補助事業)

災害救助犬を知ろう！

～災害救助犬の役割とは？～

(定員30名程度)
お申し込みは
こちらから！

実際に犬たちと
触れ合えます！

日時 10月25日(金) 16:50～18:30
場所 市ヶ谷総合体育館5階アリーナ
講師 NPO法人災害救助犬ネットワーク

お問い合わせ
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1F学生センター内)
TEL 03-3264-9516
Mail. ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



災害救助犬とのふれあい



参加者全員で記念撮影

48. ダウン症の方と一緒に大学祭をまわろう！ 共に生きる未来へ～多様性を楽しもう～

1 日程 2024年11月2日(土)

2 場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

3 概要

昨年度も実施したダウン症の子と一緒に大学祭を回る企画を今年度も開催しました。協力団体は、昨年度に引き続きNPO法人アクセプションズさんです。アクセプションズさんは、ダウン症の子どもを持つ親御さん方が立ち上げた団体です。障がいのあるなしに関係なく、お互いを尊重できる、インクルーシブな社会の実現を目指して活動されています。昨年度の反省点として、回る時間が短いことやアイスブレイクの時間が十分に取れていなかったことなどが挙げられました。これを受け今年度は、企画時間を長めに取り十分に回る事が出来る時間を確保し、事前のアイスブレイクの時間も長めに取り、お互いに打ち解けた状態で大学祭を回ることが出来ました。また、講義企画に続き、他大学にも参加者を募りました。ダウン症を持つ子どもと一緒に活動できるような場は日常にはあまりなく、接し方に無知ゆえの不安を持っているからこそ関わることをためらってしまう事がありますが、この不安を今回の経験を通じて払拭することが出来たり、実際に関わる中で自分の中にある偏見に気付いたりできたのではないかと感じます。本企画には福祉関係に興味関心が高い方や今まで関わりを一切持たなかったという方まで幅広く参加されました。不安感を抱えて企画に参加している方もいましたが、事後アンケートでは全体として「楽しかった」といった感想や、今回がダウン症の方と接する初めての機会だった方からは、より良いコミュニケーションの方法や接し方を模索し学びたいという声も寄せられました。これは、普段関わる機会がないからこそ、初めて知ることが多く、関わり方について自身の体験をもとに考えることが出来たとともに、ダウン症についての理解が深まったように感じられます。今後もダウン症の理解が深まるように、企画を実施していけるよう努力します。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP キャリアデザイン部キャリアデザイン学科2年 盛田 有紗

4 学生参加者数 18名(法政大学16名、共立女子大学2名)

5 企画学生の感想

本企画は去年よりも自由にまわってもらえるようにしました。どこをまわるか決めるためにパンフレットを見ている時間も、参加者同士でコミュニケーションが生まれていて、よかったです。しかし、自由であるがためにまとまりをつくるのが難しい場合もあります。そのときには他の参加学生に大いに助けていただきました。事後アンケートを見ると、それぞれの学生に新たな気づきや学びがたくさんあったようでした。本企画を遂行できたのは、アクセプションズさんや参加学生、職員さんなどさまざまな人の協力によって成り立っています。企画者だけの成果ではもちろんありませんが、私たちの企画が、参加された方々の何か力になったならばとても嬉しいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 大江 千歳

始まる前は参加者の皆さんと打ち解けられるか不安でしたが、実際に交流するととても楽しく、あっという間に時間が過ぎるのを感じました。初めてダウン症の方と長い時間関わって、言いたいことを理解することの難しさを知ることができました。最初は不安を抱えていましたが、最後は参加者の方々が笑顔で帰っていく姿を見て嬉しく思いました。参加者の楽しそうな様子が印象的で、私自身も大学祭をさらに楽しむことができたので、機会があれば来年も開催できることを望んでいます。とても有意義な時間でした。企画者の方やアクセプションズさん、参加学生など企画に関わった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部法律学科1年 瀧上 かがり

6 参加学生の感想

たくさんのイベントや屋台と一緒に回れて楽しかったです。好きな食べ物や展示を聞いて回るとスムーズに動けてよかったなと思います。難しい会話の流れだと理解しにくいので、簡単な単語の羅列や、選択肢で答える会話を意識すると、伝わりやすいことを学びました。どの展示の学生もわかりやすい言葉で話しかけてくださいましたが、文字のボードなどがあればもっと会話しやすいと思いました。今回は時間が少し短く感じたので、もっといろんな展示と一緒に回りたかったです。他にも会話を続けるにはどんな工夫があると楽しむことができるか学んでからまた行きたいと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科1年 金子 瑛

とても楽しくて時間があっという間でした。ダウン症の方とここまで密接に関わることはあまりなかったので、たくさん学びもあり、とても楽しかったです。話を分からなかったら分からないままにするのではなく、しっかり聞いてちゃんとコミュニケーションが取れることを実感しました。

文学部心理学科 2年 小川 桃佳



グループに分かれて大学祭ツアースタート！



グループで相談しながら大学祭を楽しむ様子



交流を楽しむ様子



前半の集合写真

49. 防災キャンプ

- 1 日程 2024年11月16日(土)～17日(日)
- 2 場所 外濠校舎4階S407教室、外濠校舎6、7階ホワイエ、
フォレストガーデン、備蓄倉庫、市ヶ谷体育館、池袋防災館

3 概要

首都直下型地震が発生し、帰宅困難者となったことを想定して法政大学市ヶ谷キャンパス内にて宿泊体験を行った。トヨタモビリティ東京様に電気自動車をお借りしてハウス食品グループ本社株式会社様のレトルトカレーを調理した炊き出し体験や、麹町消防署から高齢者が避難する際の体験ができるスーツ等をお借りした避難体験を実施した。夜は避難所での生活を想定して市ヶ谷総合体育館にて段ボールのみで仕切られた空間で就寝した。また、防災コミュニティネットワーク様には災害時のSNSの使い方に関する講義をいただいた。さらに、池袋防災館にも足を運び、東日本大震災で実際に起こった地震の揺れが再現された地震体験を行った。一連の活動を通して楽しみながら日本の避難所について考え直すきっかけとなった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
文学部地理学科2年 渡邊 映乃

4 学生参加者数 27名

5 企画学生の感想

大学生活の中で普段意識しなかった防災設備や災害時の備えについて深く学ぶことができた。企画者としてスキッド体験に携わり、初めてその存在を知るなど新たな発見も多くあった。防災館での震度7の揺れ体験では災害時の恐ろしさを実感するとともに日常生活で防災の備えを意識することの大切さを改めて感じた。他国の避難所の充実ぶりにも触れ、日本の避難所環境への改善点についても考えさせられた有意義な学びの機会となった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科2年 川島 里奈

今まで避難所での生活を自分とあまり関係のないものとして考えていたため、1泊だけでも実際に体験してその大変さを強く感じた。高齢者や体に不自由がある人は避難所で生活するときに自分よりもっと大変なことが多く、現状の避難所では厳しいのではないかと感じた。また、私たちは人口が多い場所で生活しているが、実際に巨大地震などが発生したときに、今までと同じ環境の避難所ではとても快適な生活とは言えないとも感じた。どのような工夫をしていくかについて、災害が起きる前に決めておく必要があると考えた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 国際文化学部国際文化学科1年 飯田 みゆき

今回の防災キャンプに参加してみて、もし地震が起こって自分が避難する身になったら、ということについて想像が足りていなかったと痛感した。災害用伝言ダイヤル(171)や非常食の活用方法など、知識が足りていなかったことはもちろん、何が不便で何が必要なのか、自分が体験することで気づけることがとても多かったし、もしもを想像するいい機会となった。学ぶこと、吸収できることがとても多く、貴重な体験になった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科1年 花井 美友

法政大学のボランティアセンター チーム・オレンジが企画
(法政大学防災会補助事業)

大学にいる時に地震が起きたら
あなたはどのようにする？

防災キャンプ

2024.11.16(土)13:45～11.17(日)12:00

もしも大学で被災した場合、
私たちがどのように過ごすのでしょうか？
トヨタ自動車様とハウス食品様の協力を得て
実際に炊き出し体験や段ボールベッド・
防災グッズを使用した一泊の避難生活体験のほか
池袋防災館での地震体験等を通して
一緒に防災について考えてみませんか。

定員：40名
会場：法政大学市ヶ谷キャンパス 池袋防災館
集合：11月16日(土)13時45分(外濠校舎4階S407教室)
解散：11月17日(日)12時(池袋防災館にて)
持ち物：法政大学に行く際の所持品
(詳細はしおりをご確認ください)
費用：法政大学から池袋防災館への交通費

法政ボランティアセンター
ちやんねる
(Free Entry)

お申し込み！

お問い合わせ：市ヶ谷ボランティアセンター
(TEL: 03-3264-9516)
(MAIL: ichigayevc-apply@ml.hasei.ac.jp)



高齢者疑似体験をする様子



スキッド体験をしている様子



備蓄倉庫を見学する学生



段ボールを使って就寝体験



地震の揺れを体験する学生



参加者全員で記念撮影

50. 冬の献血企画

- 1 日程 2024年12月6日(金)
- 2 場所 外濠校舎5階523～526会議室
- 3 概要

2024年12月6日(金)に日本赤十字社の方々と共同して献血企画を実施いたしました。今回は献血の実施場所が献血バスではなく校舎内での開催となり、寒い冬ならではの対策になったのではないかと感じております。前回行った献血企画同様、多くの方々に献血にご協力いただきました(48名)。献血にご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

近年、若者の献血離れが問題になっています。これは学内献血を実施する学校が減少しているためだと考えられており、学生のうちに献血に触れる機会を作ることが献血数の増加につながると考えられています。私はこのような「機会」を作ることにはVSPの活動の大元であると考えており、学生と「献血の機会」を結びつけられるような橋渡しをし、献血に興味を持つきっかけ作りができるよう、広報活動に取り組んでいきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP
人間環境学部人間環境学科2年 高木 結衣

- 4 学生参加者数 48名(内献血者数42名、6名は献血できず)

5 企画学生の感想

学生が多く集まる食堂にて重点的に広報活動を行うことで多くの生徒にティッシュを受け取っていただけた感触があったのですが、実際に参加者人数を見ると例年とあまり変化がなかったため、少し悔しかったです。しかし献血を実際に行った生徒がどのような動機で教室まで来てくださったのか調査することや、献血に対するイメージの改善などできることはまだまだ沢山あると感じました。私自身、献血はほとんど毎回参加しており、その魅力を伝えたいと強く感じているので今後の活動も力を入れて取り組みたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 人間環境学部人間環境学科2年 高木 結衣

6 参加学生の感想

・献血バスではなく、教室内で行った献血は初めてだったので新鮮でした。冬は外が寒いので、暖かい室内で出来るという利点があり、その点が良かったと思います。寝転がったときの体勢がいつもと違い、個人的にはもう少し上半身が起きていた方が楽に感じました。スタッフの方々が注意事項などをしっかり確認して下さったので、安心して出来ました。

法政大学市ヶ谷ボランティアセンター主催・学生スタッフVSP企画

景品
☆モバイルバッテリー
☆レッドブル
☆カップラーメン

12月6日(金)
12時20分～16時50分
会場: 外濠校舎5階523-526会議室

冬の学内献血

お問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階学生センター内)
TEL: 03-3264-9516



ティッシュを配布しながら献血を呼びかける様子



集合写真

51. 福島スタディツアー

- 1 日程 2024年12月8日(日)
- 2 場所 福島県いわき市 自然農法ファーム白石
福島県双葉郡 東日本大震災・原子力災害伝承館
双葉町産業交流センター

3 概要

2024年12月8日(日)に「福島スタディツアー」を実施した。今年は「福島と原発事故の影響 ～今と当時を知り、未来を考える～」というテーマを設定し、原発事故とその風評被害などについて学んだ。日程については以下の通りである。現地到着後、まずは自然農法ファーム白石様に震災講話をいただき、その後農業体験をさせていただいた。次に東日本大震災・原子力災害伝承館にて館内見学をしたのち、双葉町産業交流センターにて青木淑子様にご講話をいただいた。震災から13年が経過した現在でも原子力発電所の廃炉作業は完了しておらず、帰宅困難区域や風評被害の残存等、福島には依然として解決に至っていない問題が多く残されている。今回の福島スタディツアーでは、震災や事故による風評被害等を実際に経験された方々からお話を伺うことで当事者の目線に立って思いを巡らすことができ、またそれらの問題を私たち自身が今生きている社会に敷衍して考えることのできる貴重な機会となった。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
法学部法律学科1年 辻田 実り

4 学生参加人数 28名

5 参加学生の感想

農業体験では、ストーリーで種から収穫までのせることで農業への思いを伝えるという方法や工業団地などに売りに行くなど解決策を見つけることが大切だと思いました。自分で農業体験をすることで、農業に向き合うきっかけになる貴重な体験だと感じました。伝承館では、原子力発電についてのリスクや良いところを含めて考え直す必要があると感じました。津波や火災と違い、原子力災害は目に見えない被害だからこそ、また戻れると思っていたり、解決が難しい部分があったり、災害関連死などまだまだ解決していない、向き合っていかなければならない問題なのだと改めて感じました。

文学部史学科1年 巖田 夏那



法政大学ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ

福島被災地スタディツアー

その日、原発で何が起きたのか、そして今何が起きているのか、一緒に学びませんか？

東日本大震災・原子力災害伝承館

ファーム白石

↑今日行く場所になります！↑

企画実施概要
実施日：12月8日(日) 募集対象：本学学部生30名
集合/解散：7時30分東京駅/20時42分東京駅 参加費：2000円

お申し込み先
こちらでご自身の情報を登録していただきます→

お問い合わせ先
法政大学ボランティアセンター(外澤校舎1階)
電話：03-3264-9516 メール：ichibon@volunteer.hosei.ac.jp



参加者全員で記念撮影



原子力発電について学ぶ学生

52. 手話講座特別編

- 1 日程 2024年12月10日(火)
- 2 場所 富士見ゲート6階G602教室
- 3 概要

市ヶ谷ボランティアセンターVSPでは、本学学部生を対象とした手話講座入門編を10月8日から12月3日にかけて全8回実施した。本講座は入門編に続く特別編であり、ろう者として日本で初めて薬剤師の免許を取得して薬剤師、スポーツファーマシストとして活躍している早瀬久美様を講師としてお招きし、講義をしていただいた。また、早瀬様はデフリンピックの自転車競技に3度出場されており、多方面でご活躍されている。特別編は言語としての手話を実際に体験することを目的として行った。手話通訳士として入門編の講師を務めていただいた中野佐世子先生、豊田直子様もお招きした。早瀬様には事前に募っていた質問に答える形で講義を進めていただき、自身の生い立ちから学生時代をどのように過ごしたのかお話をいただいた。次に薬剤師を目指そうとしたきっかけ、「耳が聞こえない者には薬剤師の免許を与えない」という法律をどのように変えたのか、自転車競技との出会いなどについて詳しくお話ししていただいた。日常的に手話を使用して会話をされている早瀬様の手話を実際に体験することができ、有意義な時間となった。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部政治学科1年 柳澤 心季

4 学生参加者数 34名(うち東京家政学院大学1名)

5 企画学生の感想

早瀬さんのお話はとても表情豊かで体全体を使って参加者に気持ちを届けていたのが印象的でした。それは私たちが言葉で話すよりもはるかに「伝えようとする思い」がまっすぐに感じられました。また、早瀬さんが耳が聞こえないことを恐れず、負けず嫌いで何事にもチャレンジされてきたことを聞いて、私や周りの大学生は将来を決める大事な時期を過ぎて不安になることも多いですが、早瀬さんのパワフルなお話でとても勇気づけられました。早瀬さんのお母様の「法律は人が作ったものだから社会(人)が変われば法律も変えられる」というお言葉が心に残って、固定概念にとらわれず早瀬さんのやりたいことを後押しした言葉に私も決まったルールにとらわれずに何事も挑戦していこうと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 大平 夏実

今回私は授業があった関係で講座自体には参加せず、準備と事後活動、中野先生と講座前にお話をして企画について相談する役割を担当しました。1年生主体ということもあり、企画を考える側になることが初めてだったので、責任感や企画者同士との協力を意識しながら取り組むことができました。講座の前に早瀬久美さんにお会いして、私が手話で自己紹介をしたとき、笑顔で接してくれたことが嬉しかったです。私が早瀬さんに名前を伝えたいという気持ちと、早瀬さんが優しくその気持ちを受け止めてくれたことで、手話を間違えたらどうしようという私の不安がなくなりました。それぞれが普段異なる手段でコミュニケーションを取っているということは、お互いがそれを理解していることと、この人と話したいという思いがあればあまり大きな壁にはならないのだと感じました。この企画で経験したことを、今後の新しい企画でも活かしたいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 人間環境学部人間環境学科1年 清澤 夏輝

6 参加学生の感想

早瀬久美さんがとても前向きな方であることが印象に残った。生まれつき音が聞こえなくても、その自分を受け入れてきたこと。また何にでも挑戦してきたこと、更には障害がある為に薬剤師になれない法律の壁に立ち向かったことを聞き、1人の人間として生き生きと生きていることを知り、もはや障害があるとかが無いとかは関係ないと感じた。今回の講義を通じ、長所がこうで短所が云々ではなく、1人の人間として自分や他者を受け入れたいと思った。

法学部法律学科4年 佐藤 幹大

今までの経験やその時どのような思いを持っていたのか、実際に耳の聞こえない方本人からお話を聞くことができ良かったです。伝え聞くのとは違うと思ったので、また機会があれば参加したいです。手話で話すことそのものより、「気持ち」を話すことが大切だと聞き、コミュ

法政大学ボランティアセンター主催・学生スタッフVSP企画

手話講座 特別編

【日程】12月10日(火)

【時間】16:50~18:30(5限)

【場所】富士見ゲート6階 G602教室



講演テーマ
「目指す夢の向こう側」

【講師】
ろう者・薬剤師・
スポーツファーマシスト
早瀬 久美 氏
手話通訳士
本学手話講座講師
中野 佐世子 氏
手話通訳士
豊田 直子 氏

お問い合わせ ボランティアセンターの活動を
YouTube動画で発信中です！ お申込みはこちらから

市ヶ谷ボランティアセンター
(外濠校舎1階・学生センター内)

03-3264-9516
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp



ニケーションは、伝える手段ではなく、伝えたいという「気持ち」が必要なのだと思います。伝えたいという「気持ち」を作ることは自分次第なので、まずは入門編で学んだ手話を少しでも自分のものにしていけたら良いと思います。

文学部日本文学科2年 内木 華鈴



講師の紹介をするVSP企画者と言葉を手話で伝える中野先生



薬剤師、スポーツファーマシストとして活躍されている講師の早瀬久美様



早瀬様の講義の様子



集合写真

53. 農業ボランティア

1 日程 2024年12月15日(日)

2 場所 群馬県渋川市

3 概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフVSPでは、本学学部生を対象とし、農家さんに対して大学生による援農支援をする企画、農業企画第3弾を実施いたしました。本企画では、援農支援を通じて本学学部生に、今の日本の農業の実情と未来の農業の形について知り、考える機会を提供することを目標に、ありのままの農業体験ができるよう工夫を重ねて参りました。今回においても、特定非営利活動法人よいおやさい様協力のもと、群馬県渋川市周辺農家さんにおいて、ブルーベリーの剪定作業、ネギの苗周辺の草取り、春菊や大根の収穫など実践的かつ多岐にわたる農作業を行いました。当日はとても寒く、加えて手作業での農作業も多いために体調を崩される方もいらっしゃるのではと心配しておりましたが、防寒対策の呼びかけや適宜休憩時間等を設けることで、参加者の安全にも気を配りながら無事に企画を実施することができたと思います。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科2年 重永 等

4 学生参加者数 18名

5 企画学生の感想

3回目となる本企画においては、より幅広く、高度な農作業を体験いたしました。

そのために過去2回の企画と比較して、より多面的で、より実践的な援農支援を実施することができたと思います。参加者からも、農業の大変さを知ることができた一方で、「農業のなぜ？」の部分が多く知ることができ、その面白さや奥深さを感じることができたという声も多く聞かれ、本企画の最終目標である、大学生に日本の農業について考えてもらうという部分も達成できたと実感しております。今後も、継続的な支援に加えて、子ども食堂など他分野のボランティア事業とも連携した、より多面的な農業ボランティアの形を模索していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフVSP 法学部法律学科2年 重永 等

6 参加学生の感想

今回はブルーベリーの剪定作業や雑草を除去する作業、穴を掘る作業など今後の季節に向けたお手伝いをさせていただきました。このような下準備の作業は地道ではありますが、質の良い野菜や果物をつくるための大事なことだと感じました。また、今回協力していただいた方々は作業手順だけでなく、なぜその作業を行うのかや植物を育てる際の注目点など多くのことを優しく教えてくださいました。そのおかげで少しですが農業に対する意識や考え方が変わった気がします。また、機会があればぜひ参加したいです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年 古賀 大善

初めてのボランティア参加で、今回参加しようと思ったのも、ゼミを決める中で自分が将来やりたいことがないのだということが分かり、とりあえず色々な活動に参加しようと思ったからでした。農業の経験はなく、1人での参加だったので不安なことも多かったのですが、現地の方々や主催者の皆様が温かく、楽しく充実した1日を過ごすことができました。機械化が進む中で、農業は手作業も多く、職の原点を見られたような気がしました。また、普段私たちが食べている野菜などは農家さんの苦勞によるものだということが感じられ、より一層食事をする時には感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました。またボランティアに参加したいです。

経営学部経営学科2年 久志本 葵

群馬県渋川市/
**農業
ボランティア**
群馬県で農家さんのお手伝いしてみませんか？
ご協力：特定非営利活動法人 よいおやさい

12/15(日) 9:00~20:00

集合時間：8:45
集合場所：池袋駅西口
(ミスタードーナツ西口ショップ前)
定員：本学学部生20名
費用：1500円(別途昼食代)

法政大学ボランティアセンター学生スタッフVSP企画
お問い合わせ：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階学生センター内)
03-3264-9516 ichigayvc-apply@ml.hosei.ac.jp

>>> お申し込みはこちら



ネギの苗周辺の草取りの様子



ブルーベリーの剪定をする学生



ビニールハウスの中での活動



大根の収穫を喜ぶ学生



メンバーで協力しながらの農作業



集合写真

54. 非常食交流会

1 日 時 2024年12月17日(火)

2 場 所 外濠校舎5階529～530会議室

3 概 要

2024年11月に行われた防災キャンプで使用したアルファ化米や栄養バランスケーキの余剰分を用い、チーム・オレンジに所属している1学年の交流会を同年12月17日(火)に行いました。初めに非常食について説明をした後、アルファ化米でのおにぎり作りやレクリエーションなどをして交流をしました。今回このような機会を設けられたことで、普段はなかなかまとまった時間が取れず、挨拶程度であったメンバーとも話をして親交を深めることができたうえ、現在の非常食の手軽さや美味しさを体験できた、非常に有意義な企画になったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科1年 岩下 彩夏

4 学生参加者数 16名

5 参加学生の感想

今回の非常食交流会は初めて参加したチーム・オレンジでの活動でした。周りのみんなは優しく、新しく加入した私にも分け隔てなく接してくれました。水だけで食べられるお米は、炊いたお米と遜色ないほどモチリで美味しく、また長期保存かつアレルギー物質不使用の米粉クッキーは普通のクッキーのようにサクサクで食べる手が止まりませんでした。この時期に入ったということもあってうまく馴染めるか心配でしたが、フレンドリーなみんなのおかげでとても楽しい企画でした。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科1年 吉田 和生

非常食はあくまで栄養補給のためのものであって、あまり味には期待しない方がいいものというイメージを勝手に持っていたが、そんなイメージが払拭されるくらい美味しかった。実食してみたことで、日常的に非常食を準備しておこうというモチベーションにもなった。こうした体験は、非常食に対する見方、考え方を变え、どのようなものを選び、どのような準備をしておくことが必要なのかなどを学び、広げていくいい機会だと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部法律学科1年 大川 諒真



参加者の集合写真



アルファ化米でおにぎり作り

55. コーヒー豆袋化企画報告書ーよりサステナブルな清掃活動へー

1 日程 2024年12月17日(火)～継続中

2 場所 市ヶ谷キャンパス周辺

3 概要

コーヒーの豆が入っていた麻袋を再利用し、既存の企画である清掃活動のゴミ袋として再利用しました。キャンパス周辺清掃では、ゴミ袋としてプラスチック製のレジ袋を使用していました。プラスチック製のレジ袋はマイクロプラスチックとなるリスクがあります。マイクロプラスチックが海に流れるとそれを魚が誤食し、私たちがその魚を食べることによって私たちの健康リスクをも脅かしてしまいます。以上のことからプラスチック製のビニール袋は環境破壊の原因になり得えます。その影響のためか近年ではレジ袋の有料化が進んでいます。私たちVSPもよりサステナブルな清掃活動をしたいため本企画を立案しました。コーヒーの豆が入っていた麻袋を再利用した清掃活動は環境・社会問題に取り組む一般社団法人サステナブル推進協会「NAMIMATI」が実施しています。本企画はこの「NAMIMATI」の活動を参考に実施していく予定です。またビニール袋から麻袋にすることで一見清掃活動には見えないことから、これまで清掃活動に興味がなかった学生にも興味を示してもらおう機会につながると考えました。この企画を通してより多くの学生に日頃のゴミ問題に目を向け、よりサステナブル意識を高めて欲しい狙いがあります。 ボランティアセンター学生スタッフ VSP 経営学部市場経営学科3年 渡部 葉奈

4 学生参加者数 2名

5 企画学生の感想

少しでも環境に優しい取組をしようという考えから、この活動は始まりました。以前まで、清掃活動において、ゴミ袋としてプラスチック製レジ袋を使用していました。プラスチックごみは、昨今大きな話題となっているように、海洋生物への被害が問題視されています。清掃活動でもプラスチックごみ排出の原因となっていることに気づいたメンバーが、コーヒー豆の袋の再利用をしました。コーヒー豆の袋は、麻でつくられています。そのため、ゴミ袋としての役目を終えても、自然に戻る、環境に優しい素材です。さらに、使い捨てのレジ袋とは違って、20～30回繰り返し使うことができます。不要になってしまったコーヒー豆の袋を、ゴミ袋としてリユースできる点も大きな魅力です。まだ手探りの状況ではありますが、環境に優しいこの袋を、最大限活用できるよう試行錯誤していきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ VSP 文学部日本文学科2年 大江 千歳



珈琲豆袋にごみを入れる様子



珈琲豆袋をいただいたお店の前を清掃活動する学生の皆さん

56. 第 21 回地域の防火防災功労賞表彰式

- 1 日程 2025年1月15日(水)
2 場所 スクワール麹町3階錦華の間

3 概要

東京消防庁が、地震などの自然災害による被害の軽減や、火災等の未然防止に関する取組についての事例の募集に、『学生×防災』が大学生にしかできない防災を！をテーマで応募した。第21回地域の防火防災功労賞選考委員会において選考が行われ選考委員長特別賞を受賞し、表彰式に参加した。

4 学生参加者数 3名

5 参加学生の感想

まずは、このような賞をいただいたことを大変光栄に感じた。当然、受賞のために普段の活動を行っているわけではないが、このような形で認めていただいたことで、私たちの団体としての活動のモチベーションにも繋がると感じている。今回いただいた選考委員長特別賞は、基本的な評価に加えて、活動の将来性についても評価に含まれている。そのため、様々な方々から期待されている自覚を持ち、さらに地域の防災に貢献していきたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 山本 真聖

防災キャンプの企画リーダーとして、「新規性」を取り入れると同時に、これまでの企画の良さを発展・継続させることを意識した。今後もチーム・オレンジは、良いところは受け継ぎつつ、新しいことへ挑戦する団体でありたい。また、今回の受賞団体の多くは社会人だった。その中で私たち学生が受賞できたことは価値があると同時に、期待の表れでもあるだろう。この受賞で終わらず、今後団体としてさらに防災啓発活動を強化し、防災意識向上に貢献していきたい。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 法学部政治学科3年 石川 大樹

学生主体で進めた活動が、ここまで大規模な表彰を受けた経験が初めてであったため、非常に新鮮で貴重な体験ができたと感じている。学生主体とは言っても、防災コーディネーターの宮崎さんをはじめとする専門家の方々やボランティアセンターの職員の方の協力があって成り立った企画である。そのため今回の表彰で改めて多くの方々に支えられながら活動ができていたのだと実感したとともに、これからより多くの人を巻き込みながら更なる活動を行なっていきたいと思った。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 塚本 彼方



表彰される石川さん・山本さん・塚本さん



賞状を授与される石川さん



第21回 地域の防火防災功労賞表彰式で記念撮影



第21回 地域の防火防災功労賞表彰式で記念撮影

57. 腕章デザイン企画

1 日程 2024年11月から作成 12月下旬に完成

2 概要

学内、学外で活動する際に着用することを目的に、オリジナル腕章のデザインを行った。企画に参加した学生がそれぞれ案を出し合い、色合いや文字のフォント、サイズなどの試行錯誤を重ね、最終的に2パターンのデザインを完成させることができた。1つ目は団体名“チーム・オレンジ”の文字を中央に配置したデザイン、2つ目は団体のキャラクター「チーちゃん・オーレ君」を中央に据えたデザインとなっており、2パターンとも青とオレンジを基調とした腕章になっている。今回作成した腕章が今後の企画に活用されることで、団体の一体感を感じ、外部の方にも知ってもらおうきっかけになれば嬉しく思う。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 葛西 啓

3 企画参加学生数 3名

4 企画参加学生の感想

今回、チーム・オレンジでは企画を主催する時に、誰が運営者なのかをはっきりさせることを目的として、腕章を作成することとなった。メンバーは全員腕章に限らず、デザインの経験がほとんどなく、そのため製作は完全に手探りで進むこととなったが、各々他の組織の腕章がどのようなデザインであるのかを調べたり、ベースが同じでも文字のフォントを変えたり色を反転させるなどの工夫を行い、良いものを作ることができたと感じている。また、自分の考えた案が採用されたことは純粋にとっても嬉しく感じた。この腕章が今後様々な場面で活躍することがとても楽しみである。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 西山 惺

今回はチーム・オレンジの腕章を製作しました。腕章の製作は初めての経験だったため、良いものができるか不安もありましたが、班のメンバーとデザインを出し合い、無事に完成させることができました。デザインを考える過程では、さまざまな案が出される中で、新しい視点やアイデアに気づくことができ、最終的に全員が納得のいく腕章を完成させることができ、良かったです。そして、完成した腕章をメンバーが実際に身につける姿を見るのが楽しみです。この腕章を付けてこれからより楽しく活動していければいいと思います。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 文学部地理学科2年 山口 健



青とオレンジを基調とした2種類の腕章



実際に腕章を着用した学生

58. 防災カフェ

1 日程 2025年1月26日(日)

2 場所 中地域防災センター

3 概要

2025年1月26日に、国立市の中地域防災センターで防災カフェが行われた。主催者のちいきエナジーや子ども食堂の方々や炊き出しを行った。また、目黒巻という災害想像ツールやペット防災について学んだ。最後にBINGを行い、地域の参加者や一橋大学のボランティアサークルと交流した。子供から高齢の方まで幅広い世代が楽しく防災意識を高めることができた。また、地域の人々が交流し、その繋がりを強化することが防災において重要であることを実感した。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 国際文化学部国際文化学科1年 飯田 みゆき

4 学生参加者数 9名

5 参加学生の感想

今回学んだことは、ペット防災における「地域の繋がり」の重要性だ。市が具体的な取り組みをしていない中で、西澤さんが地域の人々と共に意識向上に力を入れている姿勢に感動した。ペット防災はペットを飼っていない人にも関わる問題であり、地域全体で考えていくべき課題だと強く感じた。まだ発展途上の分野なので、私たちが積極的に意識を高めていく必要があると思った。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 大山 奏

協力先の方と炊き出しの一環のもやしを使った料理を作る機会をいただいた。作り方は、まず、もやしを袋からパウルに出し、そこに沸騰させたお湯を注いで数分置き、その後もやしをざるに移してから少量ずつ手で絞って水分を飛ばし、最後に大きなタッパーの中で調味料と混ぜ合わせる、という流れである。この料理は少ない食器と手間で作ることが出来、加えてアレルギーを使わずに万人受けする味を出せる優れたものである。これについて、災害時に避難所などで活用出来る可能性を秘めていると感じたとともに、災害時に既存の防災食以外に食べられるものを考えておくことが重要な事だと感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科2年 西山 惺



炊き出しをしている様子



BING をして交流する様子

59. ボランティアセンター学生スタッフ 『チーム・オレンジ』総長表敬訪問（2/4）

ボランティアセンター学生スタッフ『チーム・オレンジ』が、2025年1月15日に東京消防庁主催の「第21回地域の防火防災功労賞」で選考委員特別賞を受賞しました。「地域の防火防災功労賞」は、阪神・淡路大震災から10年目の節目にあたる2004年6月に、地域防災力の向上を図ることを目的として設立され、町会・自治会や事業所などの防火防災に関する取組について募集し、表彰することで広く都民に紹介するというものです。2025年2月4日に山本真聖さん（キャリアデザイン学部3年）、石川大樹さん（法学部3年）、ボランティアセンター長の内山政春教授（国際文化学部）が廣瀬克哉総長および平山喜雄常務理事にその受賞の報告を行いました。

廣瀬総長からは、今回の受賞レポートについて「防災キャンプや地域の防災活動の様子が丁寧に紹介されていて感心しました。」とのコメントをいただきました。コロナ禍においてボランティア活動の継続や部員集めについて苦慮していたチーム・オレンジを知っていた廣瀬総長より、それを乗り越えて活動を地道に行ったことについても評価をいただきました。これからも頑張る活動を継続してくださいとエールをいただきました。

平山常務理事からは、防災活動を自分事として捉えつつ、それを広げていくためのネットワークづくりをされていることや次の世代に伝えていくことの大切さなどをきちんと意識して活動をしている点について評価をいただきました。引き続き、学内のみならず地域を含めた防災活動におけるネットワークの構築に一層励んでいただきたい旨のコメントをいただきました。

その後、チーム・オレンジならではの防災啓発活動や被災地支援の話が行われ、廣瀬総長、平山常務理事ともに関心を寄せられていました。今後ともボランティアセンターの活動について関心をいただくとともに、みなさまの防災意識の一助になれば幸いです。



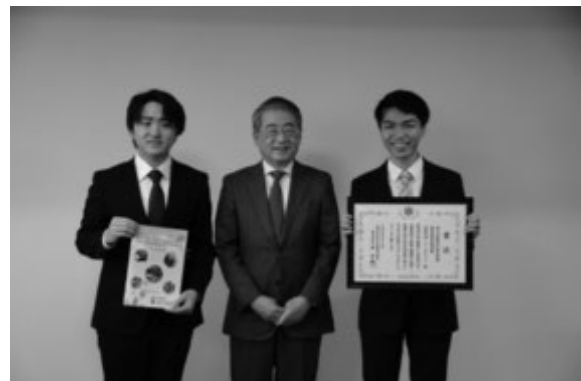
受賞報告をする石川さん



団体の活動内容を説明する山本さん



集合写真（左から平山喜雄常務理事・山本真聖さん・廣瀬克哉総長・石川大樹さん・内山政春ボランティアセンター長



廣瀬総長と記念撮影

60. 非常食企画 企画者報告書

- 1 日程 2025年2月25日(火)
2 場所 外濠校舎5階 523～526会議室

3 概要

防災、非常食と聞いたときに難しいもの、美味しくないものという認識をしている人が多いことに危機感を感じ、もっと身近に感じてもらえる機会が必要であるということからこの企画が出発した。本企画では実際に法政大学内で備蓄されているものをガスを使わずに食べるという体験のほか、BINGなどの防災にまつわるゲームを班ごとにディスカッションを行った。アルファ化米や魚のおかず、パン、クッキーなど多種多様な非常食を食べるだけにとどまらず、防災というとても広い概念を考えてもらう良いきっかけになったのではないと思う。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ
人間環境学部人間環境学科1年 阿部 晴香

4 学生参加者数 15名

5 企画者の感想

今回私たち企画者も実際にグループワークに参加し、様々な学びを得ることができた。ディスカッションの中で見えてきたことは、防災というものをとても難しく遠いものだと考える人が多いのではないかとということだ。避難用持ち出し袋の中身を考えることをはじめとし、多くのことはどれだけ有事の際に、日常の延長線上に近づけることができるかという視点を持ってもらう必要があると感じた。また、本企画に一般応募で参加してくださった方々は、比較的防災意識が高いように見受けられたため、大学のボランティアセンターに所属する一員として、より多くの方々に届ける工夫が求められると感じた。

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ 人間環境学部人間環境学科1年 阿部 晴香

6 参加学生の感想

限られた非常食の中でどのように分配すれば栄養素を補えるかをチームで意見を出し合いながら検討したことによって、1人で学ぶよりも非常食に対する理解が深まったように感じる。

法学部法律学科3年 菅原 彩純

講義と実践があり、災害時の備蓄に何を入れたら良いかを学べた。防災士取得の企画者の方に、防災知識をたくさん教えてもらった。意外にもビタミンが不足することや水の必要性、日本の防災対策の現状など学びが多かった。参加して良かった。

キャリアデザイン学部3年 樋口 泰空

法政大学ボランティアセンター
学生スタッフチーム・オレンジ企画

非常食を食べよう

私たちと非常食について
食べながら学びませんか？

11:00 企画開始
11:05 アイスブレイク
11:30 非常食準備
ワークショップ
12:30 実食
事後アンケート入力

日時：2月25日(火)
11:00～13:00

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス
外濠校舎5階523～526

定員：20名

費用：無料

お問い合わせはこちら 市ヶ谷ボランティアセンター
ichigayavc-apply@ml.hosei.ac.jp
03-3264-9516 お申し込みはこちら



アルファ化米に水を入れる学生



集合写真

61. ながら見守り活動啓発グッズ考案企画

1 日程 2024年5月8日(水)、11月14日(木)、2025年2月26日(水)

2 場所 千代田区役所本庁舎4階 教育委員会室

3 概要

2024年3月より、約1年にわたって千代田区ながら見守り啓発ボランティアに参加した。チーム・オレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、明治大学ボランティア団体Treeの学生が参加し、千代田区役所の職員の方々とミーティングを重ねた。「ながら見守り」とは、日常生活を送り「ながら」、防犯の観点をもって子供たちの安全を「見守る」活動である。今回は学生主体でキーホルダーのデザインを担当し、千代田区役所と協働しながら約1年かけて完成させることができた。このキーホルダーを、「ながら見守り」を行う千代田区の人々が身につけることによって、防犯活動の存在を視覚的に訴え、犯罪抑止効果を高めることが期待されている。これからこのキーホルダーが、区内の大学や企業に配布が進んでいく。この「ながら見守り」が推進されていくことで、子供たちにとって安心な世の中を作っていくことができるだろう。ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年 山本 真聖

4 学生参加者数 のべ30名

5 参加学生の感想

約一年間、何もないゼロの状態から班それぞれの意見を組み合わせながら活動をし、結果として一つのキーホルダーの完成まで携わることができたことは有意義な経験であると感じた。これまではグッズの作成を行ってきたが、今後はこのキーホルダーを実際に身につけることで千代田区に通学している一人の学生として、生活しながら周りの子供たちの安全を見守ることで貢献していきたいと感じた。

法学部政治学科3年 毛塚 雅人

はじめは、何もない状態から「ながら見守り」の啓発グッズを作成することに不安を感じていた。しかし、徐々に完成が見えてくるにつれて、期待とともにワクワクする気持ちが膨らんだ。これまでのチーム・オレンジの活動は防災啓発が中心であったが、区と協力し、一つのものを作り上げる経験は非常に貴重であった。キーホルダーは完成したが、ここからが本番である。少しでも千代田区の子どもたちの役に立つことを願っている。

法政大学法学部政治学科3年 石川 大樹

千代田区「ながら見守り」啓発キーホルダーのデザイン案の考案に参加して、子どもたちの安全のため、私も「ながら見守り」で貢献していきたいと感じました。デザイン案を考えるにあたっては、より多くの人にキーホルダーを使用してもらい、かつ防犯のための視認性を高めることを両立するにはどんなデザインや色合いにするといいか工夫しました。これからは実際に身につけて、ながら見守りに参加し、子どもたちの安全に貢献したいです。

法政大学法学部政治学科3年 滝田 隼一朗



完成した「ながら見守り」啓発キーホルダー



完成お披露目会の様子